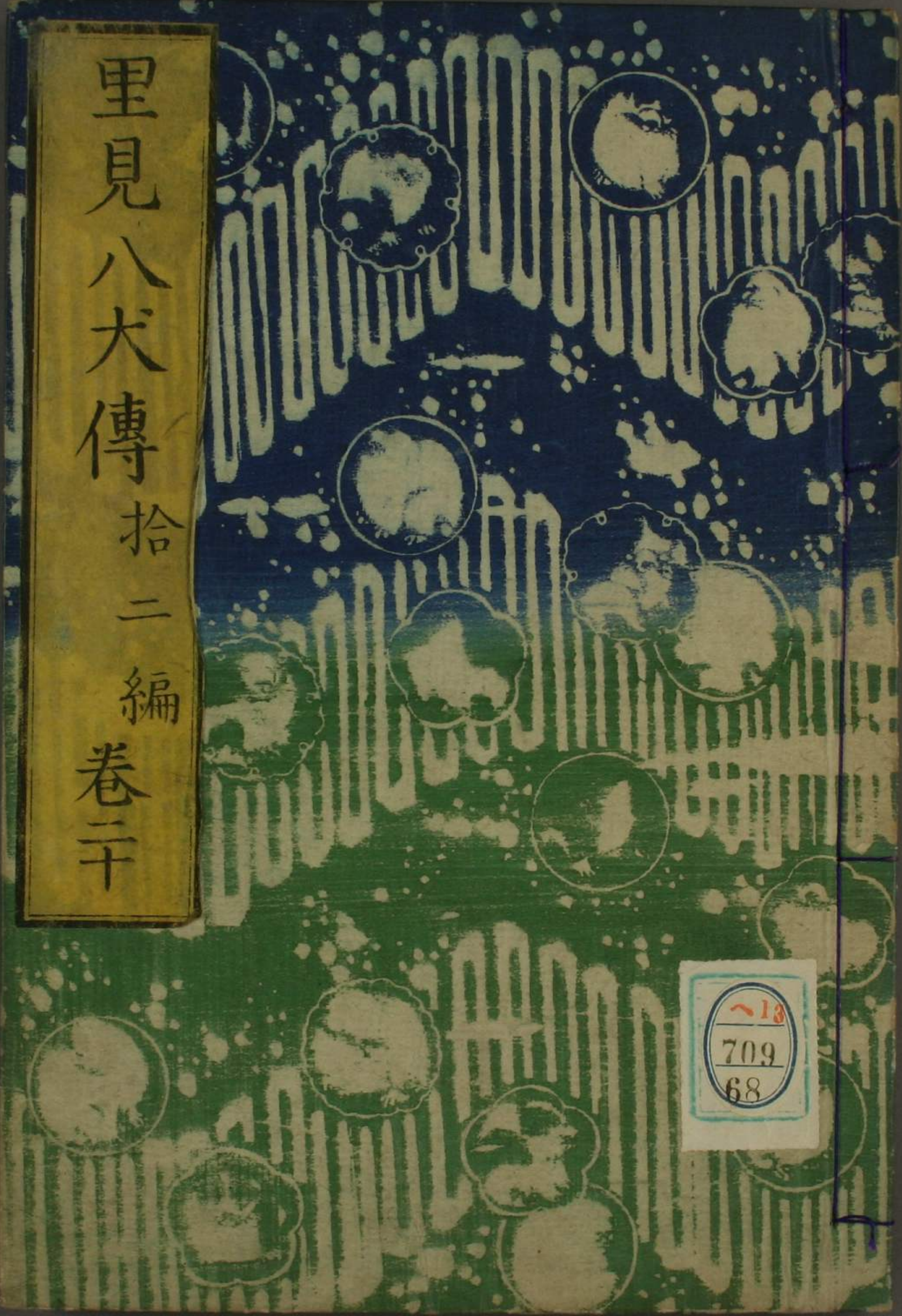




里見八犬傳 拾二編 卷二十



~18
709
68



門 遠 13
號 709
卷 68



明治 年 月 日 購 求

南總里見八犬傳第九輯卷之二十

東都 曲亭主人編次

第百十回 犬士露宿して追隊を迎ふ
老僧袂と褰て真罰を示す

かくていぬつる夫のゆりたる。さたあひいこあふまたの
却説犬塚信乃戌考の御小憶を總ひて路傍矮堂をありし。地藏菩薩の奇異
利益齋たる米の來歴を照文兼、大代四郎親兵衛の漏をこく。四六城の舊僕出來
すけこらう。こまきこらう。こまき
多横死事及徳用と虜ふある。事の終りまで言詳し盡し程小照文が若黨紀二六も
庫裏の邊不在り。一五十五と洩して俱小感嘆をさける。當下信乃の紀云ふ吟吟で御小野
兵某甲小預ける。米と囊の俵合寄せて件の人々小見せし。皆奇不驚の妙と稱えく
佛法无量廣大の利益と仰せらる。けり。升が中、大法師の恭まき身と起して左右川は方
うち向ひ合堂と地藏菩薩と伏拜む。數回念果て坐復りて。却信乃は生る。拙僧

八犬傳し輯卷之二十
後集

素より菲薄なりて念佛の外所作せられぬ。君侯御父子は御盛徳と和殿達八士は孝義
賢才の因縁ありて世に今流瀆れ及ぶ。非情の石像、灵异ありて、今日大厄と被せ玉
ひ利益眼前疑ひる。又風雲の天助の如く、伏姫神の擁護する。疾神の冥助の如く、
佛の利益の促進する。是神佛の異る所以、賞罰の差あるに似る。悪と懲りて善と與
する。天理の外ある。是の幸を感嘆し、他事ありし。信乃は之れ餘の七犬
士も我らで不然しやと。俱に謙遜ありける。姑且て信乃の毛野の事。そをぞ。這米を
才の二件あるあり。今我一路見の庵主姥雪、蛭崎主僕、穀兵と俱に二十名。是我八名を
加れ、都て二十八名の食料を粥の炊き、一碗を各啜る。不足する。那白屋の鍋を、向て
毛野の頭と掉て、否。那里の貧子、小布を敗、越一枚ある。鍋釜を、あまきと、答を道
節うち、听て、和殿們も知る。其米と、囊の俵、水浸し、壤に埋めて、上を柴と、焼く。
蒸れて、軀て、飯を、做る。野陣を、鍋を、折戦飯を、炊く者、の必き、事なれども、人の言

此の米、實分、粥より外、せん、走る。と、莊、點頭、て、現、米、を、足、さ、れ、一、握、宛、と、一、貫、の
饑と、泣、ぬ、せん、も、塩、も、て、不、便、よ、と、毛、野、の、不、台、塩、の、有、り、咱、們、方、僅
この、庫、裏、の、背、る、白、屋、の、真、邊、と、檢、査、折、其、頭、小、在、石、地、藏、の、人、の、供、う、塩、二、土、器、あり、又
その、前、面、大、竹、藪、の、中、に、竹、見、の、生、る、と、竹、見、の、自、生、の、俵、拔、ぎ、梢、を、伐、垂、本、然、而
竹、の、枝、を、の、根、を、と、り、節、と、串、ひ、て、上、を、樽、酒、油、を、洗、入、れ、の、四、下、の、土、を、穿、て、何、れ、新、か、く
焼、と、ぬ、の、竹、見、蒸、熟、し、て、味、は、烹、く、木、勝、れ、も、如、此、を、れ、の、明、年、其、頭、小、竹、見、知、る、と
る。是、不、好、事、の、驕、饜、を、れ、其、小、倣、人、と、あ、わ、ね、も、數、る、竹、見、と、穿、採、多、く、开、も、壤、蒸、本、做
る。飯、の、足、る、と、補、ふ、合、米、小、妙、る、と、宗、大、家、給、ひ、て、毛、野、が、萬、事、小、脱、落、る、と
信、折、ゆ、も、之、の、逸、早、り、と、答、言、け、信、而、信、乃、紀、二、六、信、々、と、あ、る、ゆ、せ、件、の、米、と、鹽、與
んと、ま、る、小、囊、原、是、石、地、藏、の、頭、巾、を、れ、二、件、の、米、と、容、も、も、二、件、の、飯、の、蒸、く、何、を、欲、得、と、そ
求、る、大、の、頭、陀、囊、の、白、布、單、を、製、れ、る、も、是、よ、る、と、復、と、啓、て、出、ま、と、れ、現、四、五

餅の飯と容るべし。登時信乃ハ又紀二十六不承命。米ハ甲乙兩箇に囊小分り納て水浸し。その
 俵沙く土中埋て柴と焼く飯小做るべし。又嚮汝もろり。竹叢小生出さる。筒見を
 引く。抜採て皮を剥祛ぎて。梢を伐棄根も。節を串して石地藏供する。塩を佛に乞
 寫て筒見の節の内へ塩と班る。好搗入して。壞蒸ふ。く皮を剥祛ねと。教諭せ。照文
 も詞を添く。終紀二十六その美い要る。奴隷と母小傳せて。奪せ。奪ね。く。終紀二十六
 あり。果て。囊の米と頭陀囊さ。受令も。引提て。馳く。外面退りけり。あ日四月十六日
 少。日の最長の最中。朝のあ。時。暮果ね。八士。那邯鄲客
 舎。小總ひ。盧生。あ。これ。飯の蒸る。假寐の枕を求む。大家親兵衛を。珍客。あて
 、大照文代四郎も。俱。草。坐。閑談。數刻。及。當。小。文。五。親兵衛。向
 ひて。喃仁。汝。富山。出。世。老侯。見。參。始。素藤。征。伐。の。支。趣。又。日。兩
 國。河。原。あ。蜚。崎。生。相。別。れて。素藤。再。征。の。為。水。行。を。上。總。の。館。山。赴。折。の。事。也。

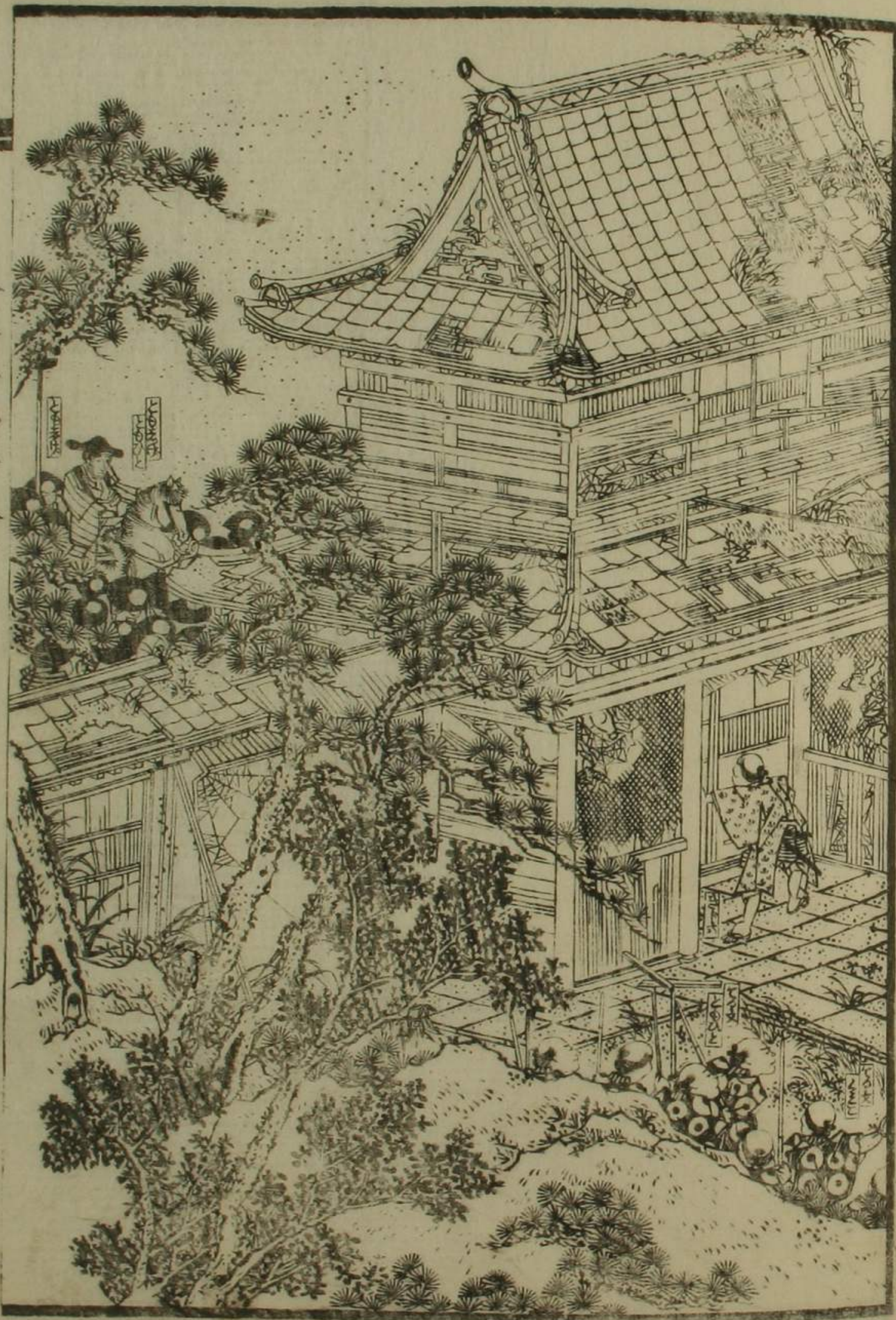
蜚崎生も。燒雪も。對面。折。所。か。介。後。の。あ。知。那。折。上。總。伴。い。あ。と。あ。あ。あ。
 那。二。個。の。一。路。見。と。あ。の。地。俱。く。あ。と。向。へ。又。莊。の。隨。親。兵。衛。と。次。圍。太
 卿。三。孝。嗣。の。奇。耦。を。只。顧。感。く。己。ま。又。毛。野。と。道。節。の。孝。嗣。が。館。山。あ。て。軍。功。の。有。や。無
 や。那。身。の。安。危。と。問。が。信。乃。現。八。大。角。も。又。大。照。文。代。四。郎。も。齊。一。膝。を。找。め。つ。く。
 と。問。れる。親。兵。衛。憶。を。歎。息。して。筆。で。茲。解。示。も。素。藤。伏。誅。の。支。の。光。景。及。妙。椿。を
 富山。の。牝。狸。を。あ。の。孝。嗣。並。次。圍。太。卿。も。戰。功。の。あ。あ。八。大。士。先。も。館。山
 仕。ら。ん。と。欲。せ。も。又。親。兵。衛。の。從。て。結。城。へ。來。身。路。の。程。今。日。諸。川。の。這。方。も。親。兵。衛。の
 憶。の。一。個。の。法。師。の。喚。留。留。て。大。庵。主。の。厄。難。の。詳。小。告。ら。れ。く。路。次。の。い。そ。だ。に
 左。右。川。の。上。も。緝。捕。の。頭。人。長。城。惴。利。の。馬。の。尻。と。持。走。く。人。馬。を。急。湍。の。滾。落。し。
 敵。の。夥。兵。初。だ。て。大。代。四。郎。照。文。主。僕。の。急。難。と。救。折。後。れ。て。末。身。孝。嗣。次。圍。太。卿
 二。も。共。侶。那。里。の。圮。橋。と。渡。る。程。前。面。の。藪。蔭。敵。の。伏。兵。あ。て。放。如。鐵。砲。の。件。の。二。人。數。

落されて急湍の為に流れや亡げ骸も住めを做りてかど天助風塵の奇特よとて勅敵或
 同士敷（あつち）一或川（あつち）顛陥（あつち）、大代四郎照文主僕と極（あつち）ひよと任々と告知（あつち）し又と答る那折風
 靈（あつち）の天助（あつち）とあり必是伏姫神の靈驗擁護（あつち）るを里見の舊縁（あつち）をけれとて後忠孝義
 俠（あつち）多（あつち）くは我三個の一路見と看熟（あつち）ふあゆひける神慮（あつち）の料（あつち）がけれも鄙語（あつち）のへとてあつち
 死（あつち）る病人を治し神の高運（あつち）の九丈と衛（あつち）る然（あつち）と孝嗣次國太卿（あつち）云果敢（あつち）る川敷（あつち）と陷（あつち）る
 其俱（あつち）命數盡（あつち）るもむ左も右もむと惜（あつち）けれ不（あつち）娛（あつち）々具（あつち）の解（あつち）示（あつち）せ、大照文代四郎
 那折（あつち）のよとていひて人各幸不幸の同（あつち）らぬと歎（あつち）けり今を聞く毛野道節（あつち）は小文吾
 信乃現（あつち）大角も皆胸（あつち）と決（あつち）て孰（あつち）も浩歎（あつち）せるを惜（あつち）むあつち孝嗣次國太卿（あつち）云二期の
 落命（あつち）先縁（あつち）虚（あつち）かまて偶（あつち）の地（あつち）も幸（あつち）ける再會（あつち）の本意画餅（あつち）を做りて造化（あつち）の小兒（あつち）は失
 策（あつち）るもとていひて果（あつち）せるも皆共侶（あつち）を送恨（あつち）る方（あつち）もけるその中道節（あつち）の憶（あつち）は
 聲（あつち）を励（あつち）て今番孝嗣們（あつち）之友の横死（あつち）の悔（あつち）て復（あつち）ら歎（あつち）されも大江が那折（あつち）の冤家の頭

人長城（あつち）惴利（あつち）とやらと討捕（あつち）る慰（あつち）るよとてあつち馬（あつち）と捷走（あつち）るも川（あつち）へ没（あつち）るのまを
 開（あつち）亦（あつち）仁の過（あつち）る當（あつち）の敵（あつち）のあつちと皆同惡（あつち）の奴（あつち）們（あつち）の生口毎（あつち）の首（あつち）敷（あつち）る墮（あつち）して這憤（あつち）
 怒（あつち）と洩（あつち）さる何（あつち）ぞと孝嗣們（あつち）三個の亡魂（あつち）と祭（あつち）るやと性（あつち）起（あつち）ると毛野（あつち）の推（あつち）禁（あつち）めとそと易（あつち）
 此事（あつち）も今（あつち）はとと思惟（あつち）る那風塵（あつち）の天助（あつち）妙（あつち）応（あつち）又大江（あつち）中途（あつち）で、大庵王（あつち）の急難（あつち）
 忠告（あつち）もとて法師（あつち）の又石地藏（あつち）の奇異利益（あつち）都て躬方（あつち）の福（あつち）あり甲（あつち）もも總括（あつち）めて伏（あつち）
 姫神（あつち）の神所（あつち）の（あつち）開（あつち）を何（あつち）ぞと推（あつち）てもあつち神（あつち）霊（あつち）の是形（あつち）貌（あつち）る物（あつち）託（あつち）るとい形（あつち）貌（あつち）あり
 ら那忠生（あつち）の路上法師（あつち）も亦路傍（あつち）矮堂（あつち）る石地藏（あつち）も皆是我（あつち）姫神（あつち）の神所（あつち）為（あつち）であつち
 らむ係（あつち）の妙（あつち）心（あつち）ありる里見（あつち）の家臣（あつち）るも忠孝（あつち）の後生（あつち）義俠（あつち）の老人（あつち）を殺（あつち）し做（あつち）る
 んや那命數（あつち）の竭（あつち）ると竭（あつち）ると誰（あつち）も知る（あつち）非如（あつち）那三個（あつち）の知音（あつち）們（あつち）の敵（あつち）の鐵砲（あつち）敷（あつち）れる
 とも窮所（あつち）のあつち死（あつち）まると急流（あつち）の陷（あつち）るとも水戲（あつち）の孰（あつち）て好（あつち）因（あつち）の命（あつち）を免（あつち）るもあつち
 まも屍骸（あつち）を檢（あつち）せむと惴利（あつち）も同惡（あつち）の生口毎（あつち）と殺（あつち）る短慮（あつち）もと諫（あつち）れは社（あつち）小文

よきことひとら。紀三六の邊與まて他も都て漏る者も飽まふべし。猶早餉の故も餘飯ありて疎食と啖ひ水と飲み臑と柱て枕として今宵を明も亦是君子るべしと云毛野が秀句の奥あれ大家笑局の入りけり左右ま程の暮一は照文も八犬士と商量あり。野兵と紀三六も課々沙庭に篝火と焼き羊分朽たる散木と老樹の枯枝をた通宵薪不置くも八犬士照文の結城より蒐る處に追隊も亦曉も一は這里不徳いと人知る夜小夜深るを外面に推寄る敵をけり皆を合し膝と抱ひ一霎時疲勞を補ふ程小夏の夜いと短くて那方小鳴ておくら杜鶴横雲の隙に聲のあて鴉の茂林と離れても城より追隊いも蒐るを昨夕残れる飯あれ又旬兒と壤蒸りて大家早飯と果も犬士們も不厭く城使と遣して那里の答と聞くは然も謀見として城の動静と探ん後と商談の時を程一己の左側よりけり。浩如は這廢院の三門を口管を敲く者あり紀三六を聲をけて來るは誰やと問ふ當下敲く者答ては是の

結城殿同宗の老黨を小山大夫次郎朝重と喚ば者之念佛供養の仍者、大庵主とから並那法遊來會の人々も昨日事ありしもの外止宿のよりと尋ねる。事の仔細を尋問ふ。且君命と傳へ馬を飛して來ぬと云門をうち開け對面せられと喚びける照文の野兵伴當們のあれをば目と注みて素破敵を寄せと云。昨宵準備の竹藪を竹を伐り火の灸り各々制の竹槍と挟み身を構て防戦んと欲まると紀三六制を退けし。そく庫裏の走りゆゆる八犬士照文們の件のより注進と然ども犬士の毫も諜をも速に對面せむの恐れありと思れん箇様々々ふまげられ。大照文代四郎も示し俱に立出けり。開か中お信乃と親兵衛の三門の邊に赴た餘の六犬士庫裏に距ると二十間許あり。若生る秋庭石の程に在りその後方より大法師の左右に從ふ照文と代四郎在り。又照文の伴當野兵們的竹槍と垂列を敷て六犬士の左右に侍り。紀三六を信乃親兵衛の從て又三門へ赴はる生口毎に那這る樹の下に敷かれ



八代傳九郎家次下

七

八代傳九郎家次下



八代傳九郎家次下
朝車
結城より来る
みちをわたりての世第の尾
根はもとよりたゞの備置

八代傳九郎家次下

八代傳九郎家次下

下者青葱純子。黒に下間道。野袴穿て白柄の螺鈿鞋の両刀と腰小帶。汗衫の上。黒草絨の身甲あり。細鏢小銀の鍔打る。臂縛袖の端より頭れり。又八犬士照文代四郎。昨日の夜。仍壯衣。野袴の織色。両刀の表表。各同く。皆千金の鋭刀を帯。人も咸千金の打扮。今ある。小山朝重。方れの二の町。似て。二の町。骨相都て弥優て。適一人。當千の勇士。ある。と。又。裏小甲。斐の指月院。才。信乃と道節。武田信昌。王。見参の折。あも。看官。答。さ。る。り。ふ。の。日。八。士。具。足。く。且。徒。類。も。ヨ。リ。英。氣。先。度。十。倍。と。暗。さ。る。對。面。然。る。躬。方。の。野。兵。伴。當。們。の。思。ふ。も。似。結。城。より。來。ぬ。討。隊。の。軍。兵。る。り。只。平。和。の。使。者。る。れ。幸。あ。る。と。含。笑。て。言。の。仔。細。を。听。ま。欲。ま。さ。各。耳。を。傾。け。り。却。説。小。山。朝。重。樹。下。小。敷。敷。れ。躬。方。の。僧。俗。と。死。目。な。け。て。磔。石。の。中。央。を。徐。々。と。來。ぬ。程。小。大。法。師。の。照。文。と。代。四。郎。を。左。右。り。找。と。出。立。迎。へ。且。法。名。を。告。て。對。面。來。意。何。れ。と。尋。ね。朝。重。答。て。某。の。結。城。同。宗。の。老。當。る。小。山。大。夫。次。郎。

朝重是君命。各尋問。一義あり。那大士とやら。少え。八個の施主。在宿る。ら。送。不。坐。し。て。談。志。し。後。方。と。な。れ。伴。の。奴。隸。が。あ。る。推。乃。草。席。十。枚。あ。り。東。西。程。布。並。れ。八。大。士。も。亦。找。と。出。て。朝。重。對。面。を。這。處。廢。院。小。庫。裏。あ。れ。も。朽。敗。れ。て。如。く。白。屋。へ。を。狭。く。て。舊。う。隨。荒。れ。膝。と。容。る。不。處。死。主。愛。兵。席。小。准。備。届。け。朝。重。の。脱。落。る。人。々。都。て。感。下。け。德。而。主。客。揖。讓。し。俱。小。程。と。坐。を。占。む。朝。重。大。夫。ら。向。ひ。て。只。今。尋。問。と。い。ひ。則。是。別。義。あ。る。和。僧。嘉。吉。の。役。小。躬。方。戰。役。の。善。提。の。為。と。結。城。の。古。戰。場。小。庵。と。締。び。昨。日。結。願。供。親。の。折。十。個。の。法。師。來。會。法。延。相。資。け。且。施。王。あり。て。貧。民。乞。見。と。賑。な。る。あ。る。と。問。ふ。と。大。夫。ち。所。て。然。り。那。先。亡。の。善。提。を。吊。り。我。舊。君。里。見。殿。の。先。考。李。基。王。法。彌。義。烈。院。殿。首。を。故。當。國。守。氏。朝。王。並。列。將。士。卒。の。為。小。宿。願。昨。日。成。就。と。れ。敢。他。の。施。主。の。帮。助。と。討。ま。る。小。夫。の。安。房。へ。少。て。情。地。遣。さ。れ。代。香。使。這。發。崎。照。文。亦。齎。ま。り。布。施。の。金。

本意を忘れて殺伐を宗とせむ。然るても仁義あり成れども。勤さる我々が本性都々
 かくの如く。余りとも。二個の友と奸悪人の亡れて。猶是をうも忍ぶべし。亦何事と忍ぶる。忍
 言聴れる。幸ひあると。緩急各理と盡く。残る所あり。朝重孰も果て感さる。と
 大くある。毛為不貌と改めて。惏然として答る。家も暴戾の臣あれ。是則主君の恥。今番
 経稜素頼。惏利們並。逸足寺の住持。徳用が。非理非法の奉動。故ありて。昨日。當
 城内。不ゆえ。某則君命あり。各の足跡と。赴きて。越前。對面。は。おひ。吉の。合。否
 知ま。欲。て。胡。意。来。路。と。問。試。し。豫。我。皆。一。趣。と。異。る。も。抑。里。見。殿。の。先。君。李。基。朝
 臣。我。先。君。故。判。官。朝。と。同。義。列。の。良。將。也。交。亦。亦。淡。々。も。俱。喜。嘉。吉。の。役。小。戰。殺。の。後
 年。と。麻。共。當。家。再。興。の。喜。び。あり。とい。へ。も。亂。れる。世。舟。車。届。て。好。を。安。房。の。結。ぶ。由。る。く
 遠。く。も。あ。る。ぬ。終。番。屏。を。胡。越。の。と。疎。濶。る。り。小。這。回。大。庵。の。念。佛。供。頼。吉。嘉。吉。小。戰
 死。の。列。將。士。卒。の。追。薦。の。與。ふ。く。且。舊。交。を。忘。れ。さ。り。自。他。平。等。の。心。操。と。成。朝。始。り

少知。る。法。會。と。資。く。べ。り。小。庵。王。の。諸。君。子。も。名。利。を。數。心。の。り。告。れ。さ。ま。是
 非。及。び。余。る。不。逸。足。寺。の。住。持。徳。用。當。家。の。驕。臣。經。稜。素。頼。惏。利。們。敢。る。あ。城
 思。ふ。と。あ。る。妬。忌。の。邪。念。と。挾。て。城。より。向。ひ。緝。捕。使。と。諷。り。猛。可。小。勢。と。駈。催。く。庵
 主。並。不。來。會。の。諸。君。子。と。推。捕。へ。ん。と。欲。せ。り。反。て。他。們。の。生。擒。ら。れ。て。恥。を。當。城。小。貽。ま。至
 る。言。語。同。齒。の。僻。事。る。れ。縦。諸。君。子。の。愁。訴。も。も。允。され。る。罪。人。を。中。小。長。城。枕
 の。介。惏。利。の。乱。妨。の。折。大。江。主。の。馬。と。撞。れ。て。人。馬。共。侶。左。右。川。陥。れ。る。も。流。ま。く。川。下。より
 岸。の。登。り。其。頭。の。相。識。る。村。の。長。剛。九。郎。と。喚。做。ま。者。の。家。の。立。寄。り。水。の。弱。り。馬。を
 勤。ら。せ。濡。れ。る。衣。裳。を。火。の。炙。ら。せ。敗。軍。の。下。と。告。り。剛。九。郎。の。推。敬。馬。の。倡。く。不。血。刃
 薦。る。程。小。主。客。共。侶。小。乱。醉。ま。く。口。角。を。ま。い。り。果。の。惏。利。怵。び。て。刀。を。抜。て。斫。ん。と。せ
 去。小。醉。る。者。の。癖。ま。れ。鈍。や。刀。を。拵。捉。ら。れ。て。反。々。剛。九。郎。の。首。を。數。落。さ。れ。剛。九。郎。も。亦
 圍。守。の。家。臣。と。斫。殺。ま。り。後。悔。く。免。れ。ず。と。思。ひ。けん。即。坐。亦。自。殺。ま。り。け。是。ふ。よ。り。近



石剛剛
 ら九利
 と郎醉
 去成多



隣の仕客們驚愕謀て時を移さず城内へ告訴す。件の下り稟を折る。經稜素頼
 が列卒伴當及惴利の親兵中も逃て城内へ入りし由もヨクありて。隨即其者毎の訴ふよ
 ぎ。件の僧俗の僻事すえ和殿們的武勇風雲狸の奇瑰經稜素頼徳用們が生
 拘れる事までもその崖略と知りし猶も堅く鞫問するその実をゆり有徳
 程の逸足寺の先住未得老僧轎子と飛し。城内へ参上りて佛の利益眞罰と箇
 様々々と懇らる。是ふとて那怪風の庵王並諸君子の為天助の奇特を知られ皆是凡
 人なる所は死を主君成朝感心有餘各位を拜鬼て宜しく謝せよと命せられる。来意の
 都てかた如。件の經稜素頼惴利の常の鷹鳥と放ち田圃と損。驕放するゆえに死す
 らねども他們が親の忠義の老當黨で。嘉吉の戦死の誓あり又逸足寺の徳用と出家
 人の相応しうぬ勇力ゆく武藝と好むと折々人の噂で成朝これを知るといへども他へ當
 家再興の日京都の管領の内縁ありて。執成稟表し功あれば甲乙俱不用捨せられたる

外なるを。他們の思ひ大々たる僻事とあらざりたり。然れども不幸い同士敵をこころ
 のとて。各位の伴當と。害するに至る。惴利をり大江生の一路見を二個を敷
 陥ける眞四郎も。那身の村長剛九郎も斫殺され因果觀面諸君子今那首級を
 檢して其友達の與ふも怨をい。鮮ぬねと。後方と。伴若黨が携た
 ぬ。袂裏と解披せ。首を親れ。首函中。内果。惴利が首級を斂めておられた
 大照文代四郎伯及八犬士も。照文の伴當親兵も駭嘆して。天理の當の徳あるべきを
 感せざる。登時朝重又。事の湊合是の。前中。各告。未得
 老隱居。對面して。又那奇特をえ。と。又伴若黨の箇様々々と吩咐れ。あ
 るる果て。門外。遠く。出。介程の逸足寺の先住未得老僧の轎子と立。兩個の喝
 食。杖掖。東西と載る。吊。十。荷。十。枚の大袂。と。被。と。夫役。二十。名。肩。擔

著く。王客の席も多しけれ。大法師の立迎。送の口誦果て後八丈士照文代四郎も對
 面。請て席を薦れ。朝重も亦詞を添。儲の草席も坐らせけり。當下未得。大
 法師と八丈士們も告る。今番法弟徳用們。非道非理の計較。松僧もぞ知て。只願
 諷諫の詞を盡。他の事をも件の非道。資る三個の檀越。幽守譜第廿重臣
 ある。師第十個の法師達。根生野の隊。捕捕り。折我寺血氣の惡衆徒十名。旅月
 力不兼。肩うち載。寺までおて。困龍んとてい。不那師第十個の法師
 達。路ゆく。猛可不重。遂不堪。かかれ。惡僧毎。壓伏。反起んと。其頭。遍
 幾十貫。身もや。身と動。各。苦。人の杖助。永る折。其頭。遍
 る里人。怪。現。件の惡法師們。各。石地藏。背。乘。道路。平張。伏
 あり。在。里人の。誅。軀。地。善。薩。會。卸。怪。む。

皆その背へ漆。粘。拾。那身。俱。拾。離。必。神佛の
 祟。んと。怕。里人。寺。走。其。里。檢。現。虛。談。あ。り。惡。僧。十
 個の懺悔。事。詳。不。知。了。伴。當。寺。か。遣。猛。可。不。十。荷。の。吊。基。門
 前。莊。客。們。昇。一。來。十。們。衆。徒。を。十。鉢。の。石。地。藏。と。俱。不。吊。臺。うち。載。せ。て
 軀。城。内。へ。お。て。ま。わ。り。年。來。師。檀。の。好。あ。小。山。主。不。直。訴。あ。け。小。山。主。驚。び。這。里
 中。亦。信。情。由。で。長。城。端。利。が。横。死。の。訴。あ。且。經。稜。素。頼。端。利。が。伴。當。殿。兵。們。の。自
 怨。招。了。ゆ。自。他。の。邪。正。分。明。る。れ。火。佛。の。祟。り。疑。ふ。大。と。そ。の。母。と。軒。鬼。て
 謝。せ。と。あ。る。館。の。御。錠。を。奉。奉。又。御。坊。の。告。訴。の。よ。と。歩。え。わ。けて。又。又。下。知。と。承
 了。打。立。一。御。坊。の。件。の。惡。法。師。們。を。俱。し。共。侶。不。由。死。あ。と。昨。宵。八。宿。所。不。歇。置。れ。心
 利。雜。兵。四。名。と。閑。宿。子。住。の。兩。路。筋。へ。走。り。遣。と。庵。主。並。諸。君。子。の。往。方。と

朝光主の建立あり。六道山能化院教主寺と喚做さる。七堂伽藍の大刹なり。吉の兵火焼亡れてかゝる荒果あり。當寺の本尊勝軍地藏菩薩。平將門の女児なり。妙藏尼の作る。我寺に迎執りたり。秘佛とて宝藏在り。樹の下にあり。那徳用。我徒弟ある。信りてくられ。他が各位小僧囚せり。是荒寺に幸れと思ふ。早暮の園守の這寺。再興の沙汰あり。時徳用が遮り。禁ち。京より悪報あり。那身と俱に同惡る。僧俗都て懲され。願ふ庵主怨とされて。御佛達に勸解と做し。千僧の萬部の讀經。彌優して。必納受ふ。則未。と老僧の慈悲の涙。頭を請求め。他事を。大法師を感嘆。則未。得ふ答る。友の肇て。廢院の來歴縁故と知り。思ひ合ふ。父の僧。那長老星額師を訪れ。折る。在住の寺の名。能化院と改め。結城城下寺院。と。猜して向も實さ。原來件の能化院。廢院の。化現。

け。這十體の石地藏の逸正寺に置れ。能化院と告られ。當初園守の發願。地の建立。做し。ま。由縁。開。隨。地藏菩薩。靈場。たる。基。示。あ。ひ。然。を。那。法。名。の。星。額。是。地。藏。尊。の。額。又。は。黒子。俗。の。地。藏。星。又。師。父。の。法。名。と。宝。珠。と。あ。も。り。亦。地。藏。持。せ。ぬ。麻。尼。宝。珠。の。よ。り。今。も。悟。り。佛。法。廣。大。邊。量。の。善。巧。方。便。不。可。思。議。る。仰。べ。信。志。と。只。管。稱。讚。礼。拜。し。身。と。起。り。吊。臺。る。十。個。の。惡。僧。向。ひ。懺。悔。し。薦。め。業。果。と。示。す。地。藏。經。一。卷。徐。讀。誦。ま。り。ま。り。放。免。祈。請。の。眼。と。閉。合。堂。を。惡。僧。們。十。念。と。授。け。破。戒。の。罪。障。解。脱。ま。り。十。體。の。石。地。藏。那。身。と。離。れ。て。苦。患。と。か。や。ま。り。尚。起。へ。り。朝。重。隨。即。夫。役。下。知。と。地。藏。と。俱。に。惡。僧。們。を。載。し。吊。臺。と。昇。り。先。城。内。遣。ち。折。未。得。那。經。卷。と。五。十。金。の。來。歴。を。肇。て。大。小。知。り。返。り。ま。り。

志をど、大に決して諾いむ。後竟不逸。足寺の什物をも做りけり。然に再度の奇異。冥応お
 けし。大士們的餘談。惜ま。開が中。信乃の亦。語次。未得。あ。前も。解示。は。那左
 右川。程遠。る。路。備。小。堂。る。石。地。藏。の。背。の。建。立。の。歳。月。を。嘉。吉。元。年。七。月。下
 四。日。建。立。願。主。淨。西。と。勒。し。る。淨。西。の。法。名。を。本。貫。那。里。の。人。氏。を。安。も。及。玉
 君。る。里。見。本。基。主。の。馬。の。鑣。奴。也。七。十。八。と。喚。れ。者。身。の。卑。賤。を。數。も。ね。も。そ
 性。の。美。ま。て。人。の。及。び。ぬ。忠。心。あ。れ。や。季。基。主。戰。死。の。折。も。馬。の。追。邊。と。毫。も。離。れ。ざ。る
 身。も。痛。瘻。を。負。る。が。敵。の。ま。ご。知。れ。ぬ。程。主。君。自。殺。の。亡。骸。を。肩。引。掛。け。命。を。免
 せ。近。近。山。林。の。迹。を。埋。め。當。晚。季。基。主。の。亡。骸。を。煙。火。做。り。寄。隊。の。大。軍。退。去
 甲。後。有。一。夜。十。八。日。主。君。の。骨。壺。と。紀。の。大。刀。と。甲。冑。と。搭。駝。し。我。寺。に。潛。來。く。情
 地。に。瀧。と。なる。穴。椿。事。あり。倡。て。住。持。の。對。面。を。請。ひ。け。り。その。時。逸。足。寺。に。我。師。の。坊

住職をりければ。訝りる。十八を。方丈に召入れて。隨即對面せしめ。當下十八。其身の
 素生箇様々。と首より。解諦して。季基主戰死の折の光景を告知せし。平响許
 然而の。烏。許。が。く。ひ。も。小。可。已。の。情。願。あり。這。主。君。の。白。骨。と。這。紀。の。兩。種。を
 悄地。御。寺。に。執。置。て。葬。せ。し。め。薄。少。る。が。布。施。と。圓。金。十。兩。を。獻。ら。む。此
 是。主。君。季。基。朝。臣。鎧。の。脇。鐔。の。藏。め。措。れ。と。後。小。可。見。出。り。且。小。可。を。御。弟。子。に。做
 せ。祝。髮。得。度。の。願。ひ。を。果。さ。し。生。涯。貴。寺。に。留。り。火。打。水。汲。み。常。令。大。馬。の
 力。を。盡。ま。し。い。と。と。件。の。金。を。薦。め。る。多。と。麻。呂。身。を。投。伏。す。請。求。る。の。他。事。を。け。し。ま。さ
 師。の。坊。に。願。感。心。を。て。奴。隸。の。心。を。か。へ。志。操。り。と。思。れ。か。と。結。城。氏。滅。亡。す。當。時。の
 事。皆。兩。管。領。の。處。分。に。依。さ。る。の。ま。け。れ。心。不。儘。か。と。町。寧。不。論。を。す。祝。髮。友。に
 受。の。障。り。る。を。願。ひ。の。隨。意。を。す。但。一。那。龍。城。の。諸。大。將。の。亡。骸。を。今。我。寺。に。葬。ら。ん
 り。の。憚。り。不。あ。り。後。難。実。小。料。り。を。か。り。汝。然。も。不。思。ひ。る。の。金。ある。を。幸。ひ。ま。す。

當山より遠くもあつぬ武井左右川の頭など此の墓所を購求めて其の白骨と瘞
 め墓表と造り立て。箇様々々ふゆつて汝の本意小稱ひせし是より外に術あつたとい
 へて十八沈吟あてやう思ひゆりけん貌と更め額と衝て仰承りゆぬ然らば先
 祝髪友の願ひとてと高きおせ井が休止宿と允されて次の日本その御前ぞ。剃髪は義を
 めせられて法名と浄西と喚做され血脈度牒袈裟法衣一具と取らせぬ十八の
 浄西へ師恩と辨し終つて。一西月逸足寺に在り。竟に左右川の頭より一間四方地を
 購ひて李基王の白骨と紀の武器三種と情地を埋墓す。墓表の與ふとて一軀の
 石地を藏菩薩と石工に課て造りなせり。細小る雨掩の御堂さへ建立まけぬ。那金
 ら思ひの隨宿願と果とけり。是より浄西へ日毎一件の石地を藏の御前に在り。鉦と
 うち鳴らして朝より暮るまで念佛の聲聞動まれば近に村民往還の良賤相憐愍て
 錢を投與へ或ハ餅握飯をと取らるもあられ。浄西へ炊ねとも餓するをゆりけり。

約の一條。當時拙僧弱齡也。師の坊の侍者なりければ親くても老母もとてその大略を不
 えり。然ハ又件の浄西へ上毛る舊里に留置る妻ありて尚ハ独子さへ子類せし
 ければ一と佛門に入りし。浮世の思ひ捨て妻も子もさへも稀る風は便も
 慰めせし程。十稔許の光陰を歴てその子年才十二ありける。春母親病て身故
 了く。馴して故郷に住不嫁。父を慕ひて辛くまで尋て上毛より來りければ浄西教
 以厭し。ゆゑおもむかると思へも尚総角ある者。追遣人の亦さきまを。留置んと欲し
 浄西へ石地藏を建立の折より。這廢院へ地藏菩薩の香火燃ると思ふ故欲顔れ
 残す。庫裏の背に最褊小る白屋と締掛。夜の寝処と做せる。子と類さくもあ
 され。口只得る子と逸足寺においで。有徳る奴の舊里より。尋す者も争何せん願
 ふ。頭と剃圓め。扱使れ幸ひある。其の美をいふ。方丈へ坐えあはぬ。ねとのひ捨て回報を
 其の那身へさかか。去るぬ。後少えける。其の年の春先住の遷化を。拙僧住持

るりければ。那淨西が出家堅固の志操と豫よりゆくと感思ひく。則他が所望の
 隨意願てその子小祝髪を法名影西と喚做し。内典外典を讀學する一とて
 二二と知る才の捷れるをその性孝心深かりければ。その身のまじる二食と親の為
 半分ち。曉毎疾起して二里おあまれる親の在処赴き飯を餽り。天明ぬ程ふ寺小
 還て常の勤ま就ると一日も解怠るる。初人皆訝り。云云と公もあり。小その実
 考登く發覺れて。拙僧お人の告く感心のあまり。その夜分影西を召きて。徳孝仍ありと
 少ぬあふ。汝の膳を分ちて淨西が食料。日毎取らま。とひかど。影西敢從は有
 か。衣まで履脱仰下ひ。ひも然りて。親の心不愜。乞慈悲甲非文のまらんより。只うち
 閣のぬねと推辭。尚始のよ。曉毎餽り。拙僧の感佩。他が飯の足さ
 ず。餓めせと憐愍。只何と多く折觸て。果子餅を取らる。開たる。持
 ぬ。必親餽り。けり。左右の程。その次の年の春の時候。浄西の風眼と病

づひく。久くも愈ぎければ。影西只願憂ひ歎。夜毎水と浴。身濯を。侍
 神佛願言して。己が身と親の病着代りとの念。去り。竟おを利益ありて。
 淨西の目あるぬ。影西のくち歎。と。拙僧お告知して。生涯親と看と。え。為
 身の暇と請ひ。拙僧ま。憐愍。介。浄西を寺へ召。と。子舎と與へ。親
 徳る孝子といふ。と。乞食お。ま。連り。林。耐。影西泣。美引。その
 義願。直。と。豫思。幾番。親。親。一。只。一。肋。氣。質。は。然
 あ。心。安。と。從。も。猶。の。上。の。お。慈。悲。の。身。の。暇。と。賜。る。と。恩。を。謝
 別を告。飄然として。お。お。影西。義。剃。髪。して。當。寺。に。在。る。と。二。檢。過。年。を
 純。の。十。三。も。親。の。為。と。食。して。一。毫。も。艱。苦。を。敢。て。始。故。御。在。の。日。他。が。母
 親。お。仕。も。徳。あり。け。と。猜。せ。る。実。の。ゆ。え。孝。子。へ。介。程。お。影。西。親。と。俱。那。路。傍。小
 堂。石。地。藏。の。御。前。に。在。り。て。往。還。の。人。の。憐。愍。を。こ。ろ。ろ。見。消。して。親。の。と。杖。掖。る



八代傳九郎卷三

廿

八代傳九郎



八代傳九郎卷三

八代傳九郎

辯去て京師赴け更ハ八宗と兼学して。智識の才あり。其の法親王の
 執事せしめて。權僧正成登り。既ハその高貴き。拙僧とて。今ハ。企及べん
 あらねども。今番の異変と告知して。後住の美を。憑る。影西本性孝順る。永く勢
 利を愛せざり。今この顯職と辭し。稟。必這地ふかる。我寺の法燈と紹ぐ。有徳
 る美談ふ。浄西の。も。問れて。その子に。上。も。詳。せ。る。こと。に。主客地上
 坐。多。思。遣。せ。長談。さ。を。傷痛。免。饒。の。と。ち。陪話。八個の犬士。大
 代四郎照文主僕。至。る。も。俱。感嘆の聲。と。合。奇也。と。稱。え。開。が。中。の
 信。乃。が。原。来。那。浄。西。始。我。思。ひ。と。里。見。由。縁。あり。と。親。子。單。る。忠
 孝。と。雪。け。の。多。り。け。然。る。忠。僕。の。剃。髮。して。亡。君。の。菩提。の。為。建。立。せ。は。石。地
 藏。の。那。衰。老。法師。化。現。我。毎。忠。告。の。利益。俗。云。縁。る。衆。生。と。度。を
 る。の。美。あり。因。今。亦。思。惟。る。那。路。傍。小。堂。石。地。藏。の。面部。不。缺。る。処。あ

浄西の願。王。浄。西。が。明。の。失。る。類。の。多。く。一。樹。の。松。と。浄。西。の。墓。表
 あり。と。の。多。く。知。る。よ。り。廻。向。せ。り。悔。い。ま。と。の。毛。野。も。亦。幸。御。紀。二。六。が。白
 屋。あり。と。告。る。一。個。の。法師。の。眼。と。閉。柱。の。凭。り。吸。べ。も。心。せ。ざ。り。と。の。思。へ。開。と
 浄。西。の。在。り。形。貌。と。顯。一。示。あ。亡。魂。あり。と。の。親。兵。衛。點。頭。て。今。が。咱。們。の
 中。途。の。庵。主。の。急。難。恁。と。告知。ける。那。法師。も。亦。浄。西。の。灵魂。歎。と。思。へ。も。其。法
 師。の。齡。二十。あり。と。色。白。く。足。を。開。を。浄。西。思。ひ。方。れ。二十。許。も。弱。か。年。齡。相
 応。から。ざ。れ。那。灵魂。あり。と。是。も。亦。伏。姫。神。の。神。変。不。測。の。言。火。心。歎。と。思。へ。も。取。扱
 智。力。の。目。今。量。り。知。る。べ。く。是。等。の。奇。異。を。後。至。り。思。ひ。合。さ。る。も。あ。ら。ん。と。の。言
 井。井。大。角。現。八。小。文。吾。道。節。照。文。代。四。郎。孰。正。可。思。ひ。俱。感。嘆。朝。重。人。の
 噂。の。浄。西。親。子。の。忠。孝。も。新。奇。の。靈。佛。利益。今。又。嘆。唱。時。の
 移。る。を。知。ら。ざ。り。の。當。下。大。未。得。白。向。聆。新。浄。西。親。子。の。忠。孝。美。談。就。て

告まわらば死一奇事あり。倘京師を影西僧正が師父未得をの招を兼容れてかへり
 束の目もあふ言傳へぬか。その故の箇様々々。那星額の赤肩すゑの如く。季甘主の白
 骨と但公の刀の事。詳の解示あり。初拙僧結城小庵を締結び比る。我先
 君の墳墓の有や無やと思ひ難て人向々索ねか。も竟知る。ゆるる。憶りもあ
 ら。白骨と紀の大刀とゆへ。亦南柯の夢に似たり。その白骨と名刀の物処を今ぞ
 知る佛の利益のへは。浄西法師の賜の。死墓表の石地藏の化現の靈異を
 る。齋の別佛也。曩の國守の建立とす。地藏菩薩の化現の事。粗
 結言の似れども。萬佛原是一佛也。地藏菩薩の両箇覺と。壁言。田母の移る月の
 影幾も。直の月を。仰け。只一輪。如の理。推と。逸足寺と
 路傍小堂。自他十一箇の地藏尊利益。則一灵佛也。今。分別。我先
 君の白骨と紀の大刀。土中。安房。赴。一種の紀の鎧。永く。地。送

であら。墳墓。甘主。空。後。古。迹。那。僧。正。對。面。告
 る。飲。ま。ん。の。飲。び。と。面。前。の。過。る。迷。憾。一。ま。の。意。と。傳。心。か。と。傳。心。か。
 未得も朝重も又這奇談の駭嘆。醉る。醒る。只共侶の感服。未得も朝重も又這奇
 未との稱える。姑且。未得の亦。大と八士。談。那。白。骨。の。一。條。亦。是。奇
 中の一大奇事也。庵主の佛意。稱ひ。德の高。知る。足。就。德。用。堅。削
 們及取。名。根。生。野。不。良。の。僧。俗。都。て。俘。囚。せ。れ。も。前。も。既。陪。話。ゆ。他。們。を
 一個も。身。方。の。淺。瘡。も。負。い。ゆ。さ。罪。饒。さ。る。む。但。那。長。城。端。利。の。殺
 室の罪免れ。け。れ。も。那。身。の。村。長。剛。九。郎。が。為。首。と。喪。ひ。自。業。自。得。と。い。つ。一。
 伏て願ふ。那。僧。俗。と。放。ち。幸。ひ。ら。ん。と。勸。解。れ。大。の。點。頭。て。亦。思。意。も。相
 同。八。士。の。意。見。も。夢。ね。も。拙。僧。年。來。の。志。願。も。果。あ。念。佛。供。養。の。作。善。と。忘
 して。執。念。深。人。を。怨。ん。や。と。い。つ。偏。と。各。の。美。を。何。と。思。ふ。と。向。へ。道。即。先

且つと云ふは罪人を牽りて退るる愚意不儘せむ。卒公おアそとうち陪話れど大士も亦殷勤ふいふが然る義あり。苟且るが主客の礼あり。先立ぬといそむ。朝重隨即外面る野兵を召入れて。經稜素頼徳用僧俗如テの罪人の法を令めり。ある牽立させ。且門外へ遣り。然而未得と共侶、大照文們告別し身起して角門より出ておけり。設ける伴當們が馬を牽向け。轎子と抬げ寄せり相迎へて俱と結城へ還りけり。介程八大士の、大照文代四郎と共侶おの目日首尾と欽び。一霎時庫裏へ退る。身甲臂縛躰繳の武具を脱して庸常を逆旅に衣裳會領ひ野兵伴當を従へ。諸川の急ぐ程の長に日るれ。然るるの時の程ら。去向の村小午の貝吹く時候りけり。話分頭然り又小山朝重の途ゆく未得相別き。結城の城ふくま。隨即主君成朝小火佛の奇異大士の武勇、大照文代四郎們が答宣志し。事の趣及經稜素頼徳用堅削僧俗十數名の罪人を

受合さる。牽きて歸城の終末。詳しゆるおげり。成朝主又うち教馬れて、大の道徳大士の智勇と賞感特の凌ぐ。往古より靈佛の利益といふのヨラれ。然るも正に靈聖なるる。我も結縁の為るれ。念佛の行者、大と八個の勇士の對面。意衷を示さる。悔みたる不娯。今うち捨て死思ひあり。是ふより。經稜素頼們的非義非法の罪と糾し。賞罰公る。必や隣國の諸侯の為る悔られん。更の朝重課の件。罪人們を繋ぐ獄舎。數系せ。拷問數回。及び。經稜素頼徳用堅削們。今番の奸詐暴虐。具お招了。あるの。年來驕恣。わく上を憚らも下と虐けらるる。這時都て發覺れけり。あれども。經稜素頼們的親の嘉吉お忠死の舊功あり。又徳用の當家再與の折京都の管領家へ提擲。あうもあれが俱お死罪一。宥め。經稜素頼の所親お預け置れ。徳用堅削並お同惡の僧俗の或は法衣と訓捉られ。或は背を鞭。俱お追放せし。ける。日逆正寺の先住未得を

召上をて徳用門の徳々の罪われ追放せしむる言示され後住のその罪當るに学
 徒の光実ると擇入院せむべしと命せしむる。謝断の一條ハ朝重徳裁と有司
 と俱に主君の旨と伺ひて像のどよひける。介程の経稜素頼の獄全の呵責
 饒され所親の家閉籠れて放免の日を待つ。その六月の時候、熱病を犯
 され、俱に黄泉の客とる。介るの経稜素頼及惴利の各、各山蔵る男子あり。そ
 母親の推乃られて外祖の家へ親より、三稜許歴、後成朝則件の経稜
 素頼惴利の兒子之名と口出し、親の本領の半分と賜て、聖名長城根生野の絶
 る家と嗣、めぬ成朝か、如く公評あり。賞罰正しければ、諸臣畏服し、乱臣賊
 子も忠臣賢才を用ひられて、這家長く治り、天正の年間、暗朝の世に至るまで、舊家
 連、大諸侯より、世の人の知る所、間話休題、却説、逸正寺の未得、徳
 用堅削、追放せしむる、その年、使僧を京師遣して、故の徒弟を、那僧正、影西の

徳用堅削門の犯せ、殺伐の罪より、追放せしむる言示され、我寺荒て、諸檀離
 れ、も御坊始を忘れ、鴻雁北の歸の意あり、僧細の頭職を惜むる
 之、我寺未て、法燈を紹、一人、草の亟る、早天の雨の如く、と、そのせ
 ける、影西の消息、感涙の找、覚、尚、今、頭職の勢利を捨て、師の招き、
 應、這世の牛車の榮あり、来世の必地獄、墮、只、速、下、先、その使僧を
 結城へ還、某の院の法親王の陳情の啓、且、病着、托、着、連、り、
 職事、辭、以、画、示、法の竹園直、其の孝順を感、思、願、ひ、の、ま、く、下、總、
 還、る、を、允、ひ、ひ、く、の、年、の、冬、の、時、候、影、西、の、結、城、の、逸、正、寺、の、未、
 得、の、對、面、せ、し、再、會、の、鉢、大、く、る、の、躬、て、固、守、の、由、を、影、西、逸、正、寺、に、住、
 持、お、做、り、よ、の、遠、近、の、良、賤、渴、仰、を、敏、目、隣、國、の、類、を、り、又、那、十、體、の、石、地、藏、
 と、又、那、路、備、小、堂、を、地、藏、菩、菩、薩、の、利、益、靈、異、を、傳、傳、者、參、詣、日、毎、固、断、る

兩所の賽銭々々其をのり料ら所をる。あも皆逸足寺へ收納をあれ財用
 餘りあるのり。影西の儉素ふして衆徒を教育の暇ある毎に徒弟四五名を招き
 う錫を突鳴らう。城下の町近郊の郵里と券縁をり大判の住持みづううして衆
 生を薦る托鉢る賢も不肖も皆る信をて捨の寡を恥せり有徳り程の先
 住未得の遷化をて三周の忌あする年まで逸足寺に聚合たり。金を慮二三萬兩
 る影西の豫も那六道山能化院を再興の志願あり。開が為貯蓄財用をて他
 事お使をよと國守の懇免許を経て土木の工を興ある成朝主欽び。則數千
 金を捨る。その經營と補助あり。且能化院の坊料を舊の如く寄附せらる。然に結
 城武井諸川の士農工商招ざる聚ひある。土と運木舟車と推さ者日毎に幾百
 名ると知る。約莫二三椀許あり。七堂伽藍送も。奇麗壯觀目を敬慕さゆ。ふ
 都く落成をりける。あも。影西長老の那勝軍地蔵菩薩を逸足寺の宝藏る

出たりて。昔の如く能化院の本堂お居たり。又その本堂の西のく地蔵堂と造営
 して。那十體の石地蔵をも逸足寺より。件の堂移しあせ。又那左右川の邊を路傍
 小堂。と廣く造更めて。その四下る社客の田圃を。價宜く購合りて。香華料と
 して。守堂の老僧を置けり。况又能化院を。学寮と建て。衆徒を教育。曩お徳用
 追遣られる。良善正直の法師們を召還して。諸役僧お做けれ。國守成朝主その大功を
 答言て。影西前權僧正。能化院中興の祖と仰ぶ。る。逸足寺の住持をも。兼帶さ
 ると命せし。原是逸足寺の能化院教主寺の屬院より。小本山荒廢より。以来その
 子院屬院の多く。逸足寺に屬從ひ。今番又改めて。都て能化院に隸られ。影西
 既功成り。法教の暇安房へ赴けり。里見殿小見参。あなり。且、大庵主八犬士。對
 面せま。ほり。とて。國守の上目と伺ふ。成朝主欽び。我も亦お折をり。舊交を復結ん
 とて。躰て。小山朝重と。影西長老と。使として。種々の土宜。齋して。安房へ遣り。ゆけ。徳而影

西長老の朝重と共侶小ヨク伴當とて稲村の城に来着し。矢士不就て我成主不見
参り、大照文代四郎も對面く兩圍守の舊交新約障りなく敷業程不義成主
影西の孝順なる父淨西の孤忠よりて先大父義烈院の白骨改葬の執ひて町寧宣しく
日毎の御食饌大なるを影西の逗留の間出家を許されて大山寺の不勤洲崎の品山窟
那古富山の兩觀音伏姫の靈迹迹義烈院殿基の廟墓へも参詣の本意と遂て罷
去人とある前日我成主の影西朝重も東西を賜ふと勘るを更亦亦、大法師大江親
兵衛登崎照文を答礼の使として國産と三所の地藏菩薩菩薩へ寄進の東西を又ヨク
夫役們の早せ從ひて影西朝重と俱に結城へ遣して兩圍和順誓約の礼答を成
朝主の御執ひて、大親兵衛照文の御食心山河の珠味と盡しつ且ヨク牽出物を賜ふ
安房へ還されける是より後里見結城の兩家長く唇齒の圍とめて相犯きとるけり。這
折親兵衛、大照文と俱に那路備堂なる石地藏李基主の鎧塚淨西法師の墳

墓不詣けかへよ又能化院不立より十體の石地藏菩薩菩薩を拜せたり又本堂なる勝軍地
藏菩薩菩薩焼香の折這本尊をばらんとせなる小畧小諸川の那方也、大法師と代四
郎照文主僕の急難と忠告ける那法師の面影よく肖され訝り多る後よく相違ふ
件の法師の額の真中より聊左よりとて大なる黒子ありと記憶する這本尊の地藏星
額の中央ありて些一丸よりこれ原來那折の忠告法師の這本尊の化現をけりと肇て
悟て且感心のあまりと照文の悄語に照文も亦心死して咱們も畧小代香使より折、大
庵より尋ねし案内をばける那法師の相貌もこの本尊に似たりけり甲も乙も這御佛の化現の
利益をけると今十あまりの年と経て肇て俱に悟り死の念を、大もうち听て人の發明遲速
あれも佛の利益始より違ざりし感得の徳而、大親兵衛照文の俱に客殿に請待せ
られて先知客の役僧の里見殿の故らふ三人所十二箇の地藏菩薩へ寄進去ぬる固の銀の
大香爐と幾唐櫃の藏めたる一切經を遞與ければ住持影西出て對面して茶と肴め果

子と共鷹め然而里見殿の寄進の大なるぬ欵びと舒るごとく一切經の年來欲く
思ひはりかども信る田舎を輒くゆるさければ果さず今番賜りし宋板をれが実小
千金の至宝に昔年庵主の逸定寺へ遣りて三種十數軸の經と共に今より室
藏へ秘置して永く法孫の傳へむと。怡悦の眉を開れり。介後、大と法問あり又齋を
薦めり。程小日景既傾れ、大親兵衛照文の能化院を立去りて伴當主役を
從へ一宿して次の日又閑宿より船に乗て又その次の日小栢村の城へ来る。俱小義成
主小日參りて返命と稟けり。あ比義成主の照文を召きて結城の光景を向ふとあり。照
照文の能化院の本尊を勝軍地藏菩薩の昔ありける利益靈異を今番親兵衛と
俱小肇して悟りしとて出でてその故の箇様々と自義成親兵衛の、大の急難を告知し
法師のいと照文、大庵と案内あり。法師の事を解し、まあも前後約束の言はりける
靈佛奇妙の応驗といふ管稱賛をり。自義成主點頭て開いと奇りたるを約莫靈

佛の利益とる者。和漢の例勘るねと本石十二體の地藏菩薩俱小化現の靈異あり。前
前未聞の利益とるも是を地藏の化現を思ひ感の醒る何とされ石と刻き本とて
作り佛像のよき脚を擗きて言ふは道理ある。石佛本佛のゆゆしき事とせむ。那
傀儡師のよき木偶と舞る像く開て使ふ神物の別小必ある。別小神物あり。佛像は靈異の
わきとせ。然然の佛の利益と否と愚俗と善道は道導する由。余りこそ石像木偶の地藏菩
薩が未だの禍福とよく知ると動脚を運て言ひあり。聞き者孰く實事とせん。の
故小聖人の怪力乱神を語るとその都て神異又人心の福ある。世俗目と靈驗利益と稱
え。又神異靈心の人小禍ある。世俗目と妖怪との有。佛の魔佛同根也。相距ると遠くを
誰とる因て起る所を覚知し。然神佛の靈驗利益。慥小思ひ定め。口その真福の我及
べ。とる。違者を用意と。い。入。義。我。姉。君。の。靈。驗。と。嘯。々。と。直。示。主。者。有。り。と。如。と
我。の。口。の。意。と。七。慥。小。思。ひ。治。され。も。真。福。と。欵。び。と。最。可。尊。論。の。照。文。深。く。感。服

まことえ 宣ふゆゑに御教諭まで。ま明の酔い醒はる昔年毛野が論をも恐れず相似を御論を不
精細を解しつゝかゝる易り。因て思惟れ中庸の國家將小奥のまれば禎祥なり。國家
將小奥のまれば妖孽あり。この一も則魔佛同根を靈驗利益と妖怪變化と禍福の同か
るは口を人のあつと時得るも皆是御高論の御底をそと只管稱を退り出なると後の話
れも淨西影西父子忠孝は小徳は局を結んを文を流るる如く看官前後と相照して是より下
廢院の果の段も復しく見るべ。問話休題再説八生、大代四郎照文主僕(當日朝重と未得を
目送り)を馳て荒院を立ち、諸川の驛を過る程既小亭午より、大家書餉(御
驛稍盡處)の飯店(宿)と掲げて酒と飯と賣るわれ(坐)して俱小立寄る(此)店(店)と奇麗(奇麗)を奥(奥)の中
坐席あり。大八代主照文代四郎(俱)の奥(奥)より孤屏の蔭(蔭)に坐して(蔬)菜の饌(饌)を(兵)伴
當(當)一様(様)の各(各)飯(飯)を(果)し(り)畢(畢)竟(竟)大(大)士(士)們(們)這(這)里(里)聽(聽)以(以)後(後)の(の)話(話)說(說)甚(甚)厭(厭)を(を)開(開)五(五)回(回)解(解)分(分)と(と)聽(聽)ね(ね)か
南總里見八代傳第九輯卷之二十終

